(平成21年10月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>10月期の野菜の入荷状況は、根菜類や葉菜類では好天に恵まれて安定した入荷状況となったが、果菜類は夏物と秋冬物の端境期のため品目によっては入荷が不安定となった。また、土物類については全国的な品薄状態が続いているものの、中央集散機能の発揮により前年並みの入荷となり、野菜全体の入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は、土物類が全国的な品薄状態から単価高となったが、根菜類、葉菜類、果菜類については加工業務を中心に不況により需要が低迷し単価安となった品目が多く、野菜全体では前年同期を13%下回った。</p> <p>品目別には、長大根、はくさい、トマトが入荷増の単価安、ばれいしょは入荷減の単価高となり、キャベツ、レタスが入荷前年並みの単価安、ほうれんそう、ナスが入荷減の単価前年並みとなった。また、西洋にんじんは入荷前年並みの単価高、ピーマンは入荷減の単価安となり、玉葱は入荷増の単価高となった。</p> <p>根菜類は、入荷が4%増加し、価格は19%安となった。 葉菜類は、入荷が前年並みで、価格は23%安となった。 果菜類は、入荷が前年並みで、価格は15%安となった。 土物類は、入荷が前年並みで、価格は10%高となった。</p>
果 実	<p>10月期の果実の入荷状況は、メロン類は茨城県や石川県からの入荷が増え、りんご類は順調な作柄で入荷増となったが、柑橘類や柿類は小玉傾向のため入荷減となり、ぶどう類も切り上がり早く入荷減となり、果実全体の入荷量は前年同期を5%下回った。</p> <p>価格は、柑橘類、柿類が単価の安い小玉傾向だったことに加え、りんご類、メロン類についても潤沢な入荷状況から単価安となり、果実全体で前年同期を8%下回った。</p> <p>品目別には、みかん、津軽りんご、刀根・平核柿が入荷減の単価安、ふじりんご、富有柿、アールスメロンが入荷増の単価安となり、巨峰は入荷減の単価前年並みとなった。</p> <p>柑橘類は、入荷が6%減少し、価格は10%安となった。 りんご類は、入荷が4%増加し、価格は17%安となった。 柿類は、入荷が8%減少し、価格は8%安となった。 ぶどう類は、入荷が6%減少し、価格は前年並みとなった。 メロン類は、入荷が14%増加し、価格は19%安となった。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
<p>【根菜類】 長大根</p>	<p>北海道を中心に，石川県，青森県，福井県，兵庫県からの入荷。 主力の北海道では8月以降の好天に恵まれて作柄は良く，入荷量は前年同期を4%上回った。 価格は，加工業務を中心に不況による需要の低迷から，前年同期を36%下回った。</p>
<p>西洋人参</p>	<p>北海道を中心とする入荷。 北海道では8月以降の好天に恵まれて作柄は良く，入荷量は前年並みとなった。 価格は，前年が単価安で推移したことから，前年同期を10%上回った。</p>
<p>【葉菜類】 はくさい</p>	<p>長野県を中心に，滋賀県，茨城県，北海道，群馬県からの入荷。 各産地とも生育期の適度な降雨によって遅れていた生育が回復し，入荷量は前年同期を6%上回った。 価格は，加工業務を中心に不況による需要の低迷から，前年同期を34%下回った。</p>
<p>キャベツ</p>	<p>群馬県を中心に，長野県，茨城県，愛知県，滋賀県からの入荷。 各産地とも生育期の適度な降雨によって遅れていた生育が回復し，入荷量は前年並みとなった。 価格は，加工業務を中心に不況による需要の低迷から，前年同期を14%下回った。</p>
<p>ほうれんそう</p>	<p>岐阜県を中心に，京都府，和歌山県，滋賀県，茨城県からの入荷。主力の岐阜県では中旬からの冷え込みで生育遅れとなり，入荷量は前年同期を14%下回った。 価格は，不況により需要が低迷しており，入荷減ながら前年並みとなった。</p>
<p>レタス</p>	<p>長野県を中心に，茨城県，北海道，兵庫県からの入荷。 各産地とも生育期の適度な降雨によって遅れていた生育は回復し，入荷量は前年並みとなった。 価格は，不況による需要の低迷に加え，8月の極端な単価高の反動が前月から続いており，前年同期を53%下回る結果となった。</p>
<p>【果菜類】 きゅうり</p>	<p>北海道，滋賀県を中心に，福島県，群馬県，福岡県からの入荷。 各産地とも上旬は曇天の影響で入荷減となったものの，中旬以降は入荷も増え，全体の入荷量は前年並みとなった。 価格は，加工業務を中心に不況で需要が低迷し，前年同期を26%下回った。</p>

なす	<p>高知県を中心に，京都府，徳島県，岡山県，奈良県からの入荷。 徳島県で夏秋物の切り上がりが例年より早かったため，入荷量は前年同期を18%下回った。 価格は，加工業務を中心に不況により需要が低迷し，入荷減ながら前年並みとなった。</p>
トマト	<p>茨城県，岐阜県を中心に，北海道，熊本県，滋賀県からの入荷。 岐阜県，北海道では夏季の日照不足で生育の遅れていた夏秋物の入荷が続き，入荷量は前年同期を22%上回った。 価格は，入荷増により前年同期を24%下回った。</p>
ピーマン	<p>茨城県を中心に，大分県，高知県，兵庫県からの入荷。 各産地とも上旬の曇天による影響から入荷減となり，入荷量は前年同期を10%下回った。 価格は，不況による消費低迷によって，入荷減ながら前年同期を24%下回った。</p>
<p>【土物類】 ばれいしょ (メーク含む)</p>	<p>北海道を中心とする入荷。 北海道では夏期の長雨と日照不足により作柄が悪く，入荷量は前年同期を15%下回った。 価格は，全国的な品薄状態が続いており，前年同期を31%上回った。</p>
たまねぎ	<p>北海道を中心に，兵庫県，アメリカ，中国，大阪府からの入荷。 各産地とも生育期の日照不足等により作柄は悪かったが，アメリカ，中国産の入荷が大幅に増加したことにより，入荷量は前年同期を9%上回った。 価格は，全国的な品薄状態が続いており，前年同期を24%上回った。</p>
<p>【その他野菜】 松茸</p>	<p>国外は中国，カナダを中心とし，国内は和歌山県，京都府，山口県を中心とする入荷。 国産は不作だったものの，減少していた中国産の輸入量が回復しており，全体の入荷量は前年並みとなった。 価格は，高単価の国産松茸が不作で入荷減となったことから，全体では前年同期を3%下回った。</p>
栗	<p>愛媛県を中心に，京都府，島根県，山口県，熊本県からの入荷。 各産地とも生育初期の降雨によって作柄が悪く，入荷量は前年同期を45%下回った。 価格は，入荷減により前年同期を43%上回った。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
みかん	<p>和歌山県を中心に、福岡県、愛媛県、宮崎県、熊本県からの入荷。本年は表年のため着果数は多いものの、夏期の干ばつで小玉傾向での入荷となり、入荷量は前年同期を6%下回った。</p> <p>価格は、単価の安い小玉傾向での入荷となったため、前年同期を10%下回った。</p>
津軽 （サン含む）	<p>青森県を中心に、北海道からの入荷。</p> <p>本年は前進出荷によって当月の入荷が減少し、入荷量は前年同期を32%下回った。</p> <p>価格は、りんごの需要がふじへ移行しており、入荷減ながら前年同期を28%下回った。</p>
ふじ （サン含む）	<p>青森県を中心に、長野県、山形県、北海道、岩手県からの入荷。</p> <p>各産地とも生産面積を増加しており、作柄も良いことから、入荷量は前年同月を75%上回った。</p> <p>価格は、入荷増によって前年同月を21%下回った。</p>
富有柿	<p>奈良県を中心に、福岡県、和歌山県、京都府からの入荷。</p> <p>各産地とも台風や病害虫の被害はなく、生育順調で入荷量は前年同期を17%上回った。</p> <p>価格は、入荷増によって前年同期を6%下回った。</p>
刀根・平核無柿	<p>和歌山県を中心に、奈良県、福井県からの入荷。</p> <p>各産地とも8月以降の干ばつによって小玉傾向となり、入荷量は前年同期を15%下回った。</p> <p>価格は、単価の安い小玉傾向での入荷となったため、入荷減ながら前年同期を12%下回った。</p>
巨峰	<p>長野県を中心に、山梨県からの入荷。</p> <p>各産地とも安定した入荷ではあったが、切り上がりは前年より若干早く、入荷量は前年同期を3%下回った。</p> <p>価格は、不況による消費低迷により、入荷減ながら前年並みとなった。</p>
アールス	<p>茨城県を中心に、静岡県、石川県、熊本県、愛知県からの入荷。</p> <p>静岡県では作付面積が減少しているものの、茨城県、石川県からの入荷が増加しており、入荷量は前年同期を12%上回った。</p> <p>価格は、入荷増と不況による消費低迷から、前年同期を23%下回った。</p>